

## 平成28年第1回双葉町総合教育会議 議事録（要旨）

- 日 時 平成28年9月30日（木）午前11時～
- 場 所 双葉町いわき事務所大会議室
- 出席者 双葉町長 伊澤 史朗  
教育長 半谷 淳  
教育長職務代理者 岡村 隆夫  
教育委員 井上 了子  
教育委員 大久保俊己  
教育委員 山本真理子  
事務局 教育総務課長 小野田 真澄  
事務局 教育総務課主幹兼指導主事 横田 裕之  
事務局 教育粗衣有無課長補佐 高橋 秀行

### 1. 開会

### 2. 町長あいさつ

皆様には、ご多忙のところ平成28年度第1回双葉町総合教育会議にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

岡村教育長職務代理者をはじめ、委員の皆さま方には教育行政の進展にご尽力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、この双葉町総合教育会議は、昨年度3回の会議を開催して教育に関する大綱に代わる「双葉町教育振興基本計画」について貴重なご意見を頂戴しました。おかげ様で、平成28年度から平成32年度まで5年間の双葉町教育振興基本計画を策定することができました。大変ありがとうございました。

双葉町では、この基本計画に沿って学校教育、生涯学習を推進しておりますが、本日は、町立学校の運営方針をはじめとする学校教育の現状についてを議題としてご提案いたしますので、ご審議をお願い申し上げます。

本日は、よろしくお願いいたします。

### 3. 議題

#### (1) 双葉町立学校の運営方針について

##### 【半谷教育長】

学校再開から2年半が経過しました。再会当時の11名から現在は40名まで園児、児童生徒が増えました。小学校4、5年生にも転入者があり、幼小中全学年に

子供が在籍しています。教育環境、内容が評価され、先生方の熱意ある指導の賜だと思っています。平成28年度は特別支援学級を設置し、支援員も配置しています。平成29年度の目標は、50名です。現在入学希望者を含め45名程度になっています。11月30日には、中学校の授業公開を実施します。これによっても、生徒が増える可能性があります、校舎のキャパシティは150名ですので、当面は100名を目標にしたいと考えています。今後は、学級増に備えて校舎の増設が課題です。

平成28年度は震災後初めて海外派遣事業を実施するなど、町立学校以外の子供たちの教育環境も整備しています。

**【岡村委員】**

全国学力テストの結果について説明をお願いします。

**【半谷教育長】**

小学校は、全校平均を下回っています。

南小学校には、不登校のため6年生で転校してきた児童がいますが、欠席がゼロでこれまでの勉強の遅れを取り戻しています。

北小学校には全国平均を上回る児童もいます。

中学校は、全国平均を上回っています。国語A、Bとも100%の生徒がいます。帰国子女の男子生徒がおり、中学2年生で英検準2級を取得しました。

**【岡村委員】**

特色ある学校づくりの運営として、学力向上が挙げられますが、今回のテストの結果を学校、教育委員会において理解のうえ、教育を進めていただきたいと思います。

**(2) 平成29年度の双葉中学校特別支援学級開設及び教室の確保について**

**【半谷教育長】**

平成28年度、小学校において特別支援学級を新設しました。在籍は小学1年生と6年生の2名です。新採用の担任と支援員の2人体制であたっています。町立学校の特別支援教育においては、幼稚園、小学校、中学校の連携が非常に良い影響を与えています。

平成29年度は、小学1年生はそのまま継続、小学6年生は、中学校での特別支援学級の入級を希望しており、学級の新設が必要です。

現在は図書室の一部を教室として勉強をしています。平成29年度は、図書室を本来の姿に戻し、2階の会議室を小学校、中学校の特別支援学級にしたいと考えています。教室の増設は、現段階では物理的困難なためこの状況で乗りきっていきたいと思います。

**(3) 双葉町中学生海外派遣事業の報告について**

**【半谷教育長】**

当初は10名で予定していましたが、議会からもできるだけ多くの子供たちを連れて行ってほしいと言われ、生徒14名、引率者については、町から3名、常磐交通1名、現地ガイド1名で実施しました。

学校訪問、ファームステイ、観光等を行いました。英語の学びの観点からみると、双葉中学校の6名は、堂々と対応していました。ALT（英語指導助手）配置の成果だと思います。また、他にも海外研修の経験がある生徒がおり、コミュニケーションでは間違いを恐れない素晴らしい態度が見られました。今後のひとつの方向性として、高校生の参加や6泊8日の日程も検討してはどうかと考えています。

**【横田主幹兼指導主事】**

今回の事業の主な目的は、異文化交流にありましたが、参加した生徒たちは、5年前に戻って旧交を温め、町立学校の生徒と他校の生徒の間で情交交換の場面もあり、予想以上の効果があったのではないかと感じています。

(4) いわき市御宝殿3号線（通学路）改良工事について

(5) 仮設校舎敷地造成工事（駐車場・グラウンド）について

**【高橋課長補佐】**

いわき市御宝殿3号線（通学路）改良工事については、錦小学校入口から仮設校舎まで、拡幅6mのアスファルト舗装工事で、いわき市が実施します。工期は平成29年1月31日となっております。

仮設校舎敷地造成工事（駐車場・グラウンド）については、現在教職員と来客用駐車場として使用している用地を校庭として利用するためと隣接する民地を駐車場として活用するための造成工事です。いわき市御宝殿3号線（通学路）改良工事の完了後にいわき市から都市計画法第29条に基づく開発許可を受け施工する予定です。

(6) その他

**【岡村委員】**

海外研修、異文化交流について申し上げます。今、企業では外国語が話せる人材が求められています。販売員なども3か国語話せることが求められるらしいです。双葉町立学校の少人数教育の利点を活かして、活きた外国語を学ばせるため、海外研修のあり方を検討していただきたいと思います。期間やホームステイの日程を増やすなど、平成29年度に向けての検討を望みます。

**【半谷教育長】**

海外派遣事業の経費は、一人約450,000円です。ニュージーランドは航空チケットが高くなるため、旅行会社からは、100,000円ほど安いオーストラリアを勧められています。日程や、ホームステイの追加など総合的に検討していき

たいと思います。

**【井上委員】**

震災前、近所の中学生がニュージーランド研修に参加しました。その子の進路決定において大きな参考になったそうです。海外に行って広い世界を見てくることは将来につながります。福島県内でも県立高校の修学旅行で台湾に行ったところ、難関大学希望者が増えたということもあるようです。平成29年度は、修学旅行として続けてほしいと思います。

**【岡村委員】**

海外研修は、社会人になってからでは制約されます。小中高校で海外研修を実施してほしいと切に願います。人材の育成です。

**【半谷教育長】**

平成27年度学校において海外派遣事業を考えましたが、中学校の先生から引率対応ができないので、希望者でお願いしたいと言われました。双葉郡内の中学校で海外の修学旅行を実施したところもありますが、2名が不参加だったということです。海外の修学旅行についてどういう方向で進めるか検討したいと思います。

**【伊澤町長】**

海外派遣事業については、平成27年度から検討しており、平成28年度に町政施行65周年の取組として実施しました。当初10名の参加者を予定していましたが、14名で実施したとろです。

継続して実施するか、高校生も対象とするか、修学旅行として実施するか等は、平成29年度当初予算の中で考えていきたと思います。

**【山本委員】**

海外研修の再開が嬉しいです。双葉中学校の生徒の前向きな考え方に感銘を受けています。先生方や家庭での教育の賜だと思えます。中学校では、国内で日本の文化、衣食住やものづくりを学ぶことも重要であると思っています。希望者が海外研修することにももちろん賛成です。意欲的な子供を育てるため、事業を継続してほしいと思います。

**【大久保委員】**

双葉町立幼稚園、小学校、中学校ともに、小規模でしかできない特色ある教育を行い、良い方向に向かっていると感じています。環境の良さが、子供たちの学習意欲を高めていると思います。学力の向上については、長い目で見ていくことが大切で、園児児童生徒の増加が周りからの評価の高さを表しています。海外研修の経験は貴重です。

ぜひ進めてほしいと思います。

**【伊澤町長】**

海外派遣事業は肯定的に考えていますが、町長としての立場から考えると費用の問題があります。全国に町民の皆さんが避難している状況の下、今回は、双葉町民

の生徒は負担なし、町外から双葉中学校に通う生徒は1割負担としました。町立学校には、双葉町以外の子どもが増えています。その子供たちの対応をどうするか、多少の負担はしていただくという考えでおりますが、この件について委員の皆さまのお考えを伺わせてください。

**【岡村委員】**

町の事業として公平性を確保する観点から、町外の子供には負担していただくべきだと思います。

**【大久保委員】**

この事業は、町の事業であります。町外の子供は区別するべきだと思います。

**【井上委員】**

区別するべきだと思います。

**【山本委員】**

区別するべきだと思います。

**【伊澤町長】**

ありがとうございました。

その他のご意見をうかがいます。

**【井上委員】**

双葉町の将来を考えた場合、そろそろ小中一貫校教育についても議論するべきではないでしょうか。

**【半谷教育長】**

小中一貫教育については文部科学省が進めたいということで方針を定めています。福島県内では、郡山市、大玉村がモデルとなっています。

双葉町立学校は、小中連携型です。小中一貫教育は、カリキュラムや人事の問題に踏み込む必要があり、段階を踏んで進める必要があります。

**【井上委員】**

小中一貫教育こそ、町長を交えて議論すべき案件だと思います。将来の双葉町の教育についてしっかりと整備すべきだと思います。

**【伊澤町長】**

貴重なご意見ありがとうございました。今後の双葉町の教育についてこの会議の役割を果たしていきたいと思います。

以上で、議題を終了し、その他に移ります。ご意見をお願いいたします。

4. その他

**【岡村委員】**

授業公開についての意見を述べます。

町立学校は保護者との連携は図られていますが、地域との連携が課題だと思います。

今は、自分たちの地域、ふるさとながらない状況です。いわき市、郡山市の復興公営住宅を早急に整備して、そこに双葉町の核を置きふるさととすべきだと思います。そうすれば、町民の皆さんも少し安定した生活が送れるのではないのでしょうか。現在、学校での放射線教育に関する対応はどのように行っているのでしょうか。

**【半谷教育長】**

東京電力から担当者呼んで学習しています。震災前から行っていました。

**【岡村委員】**

復興まちづくり計画の中に位置付けて子供たちへの動機付けをしてほしいと思います。双葉町の復興には、双葉町の人材が必要です。学校で動機付けを行い、放射線の専門家を育成することも大切です。

**【伊澤町長】**

町外拠点については、平成29年度末を目途に整備を進めています。勿来酒井地区においては、戸建て住宅を含む双葉町に適した整備を行います。郡立診療所、社会福祉協議会関連施設、商業施設、交流の場所としての広場や、畑のスペースも確保します。これは、他の復興公営住宅とは違う特徴です。整備が遅れた分、県にはより良いものを造ってほしいと要望しました。

放射線のプロを育成することについては、おっしゃるとおりだと考えています。双葉町では、中野地区産業拠点の整備や県のイノベーションコースト構想であるアーカイブ拠点施設の設置が決まりました。双葉町は今マイナスをプラスに代えるための取組をしていきます。廃炉作業員の人材育成や住居の確保なども課題です。中野地区には、東京電力の復興本社の誘致を要望しており、プロの人材を育てる特化した施設を整備していく考えです。

今後とも委員の皆さんの貴重なご意見を拝聴しながら、町の復旧、復興を進めて参りたいと思います。本日はありがとうございました。